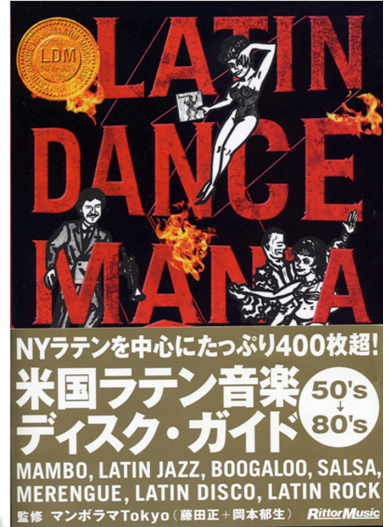


マンボラマ Tokyo presents 新宿ラテン舞

話題の「米国ラテン音楽ディスクガイド」を手掛けた執筆者集団＝マンボラマ Tokyo によるゲリラ・トーク・イベント@ディスクユニオン新宿店4F 勃発！

いちど足を踏み入れたらもう戻れない・・・ここがラテン地獄の一丁目。毎回くりひろげられるディープなトークとヒップな音楽、めくるめく超・日常体験で、あなたの音楽センスに、人生の過酷さとたくましさ、歓喜と驚嘆をドープします。

■プレゼンタ：経験豊かなマンボラマ Tokyo の仕事人が、紙面では伝えにくいUSラテン音楽のキモや、紙面にできないようなウヒヒ話もこっそりお話しします。お楽しみに。



ウィリー・ナガサキ（副総裁：パーカッション奏者）

福岡県出身。1983年に日本ラテン音楽のパイオニア松岡直也に見いだされ、彼のグループ、ウィッシングに参加。特にティンバーレスの演奏においては、故ティト・プエンテの数少ない弟子として比類のないテクニックの持ち主であるほかに、コンガ、ボンゴなどあらゆるパーカッションを使いこなすヴァーサタイルなラテン・パーカッショニスト。ブロンクス・パーカッション・スクール主催。

岡本郁生（幹事長：番組制作者 / 音楽ライター）

1958年生まれ。高校生だった70年代半ばにサルサの洗礼を受け、以来、ラテン音楽を心の拠りどころに日々の生活を送っている。大学在学中はモダン・ジャズ研究会でベースを担当。FM番組の制作者としてさまざまな音楽番組を手がけるほか、雑誌の連載、CD解説、イベント主宰など幅広く活動中。



山本幸洋（政調会長：音楽ライター）

1968年新潟県生まれ。レコード・コレクターズ、ラティーナ、ミュージック・マガジンなどで記事の執筆他、CD解説でラテン・ミュージックの紹介をしている。80年代末～90年代初頭のラテンin東京は、雑誌が少ない、書籍もない、レコードも判らない、とにかくないない尽くしだったが、アドバイスをもらえる諸先輩に恵まれて今があると感謝している。そろそろ恩返し。

■日程とテーマ：隔週日曜午後2～3時

6/29 サルサ定番	岡本郁生
7/13 ティト・プエンテ	ウィリー・ナガサキ
7/27 マンボ	山本幸洋
8/10 ブーガルー	岡本郁生
8/24 ラテン・ロック	ウィリー・ナガサキ
(9/7 テーマ未定	山本幸洋)

※リクエストがありましたら、お気軽にご相談ください。

■お問い合わせ先

【diskunion 新宿本館 4F ラテン / ブラジル・フロア】
 phone: 03-3352-2760
 email: ds1_4f@diskunion.co.jp
 もしくは
 【マンボラマ Tokyo】
<http://www.beats21.com/>

入場無料!